

白熱した第59回体育祭

更なる飛躍へ

体育科主任 渡邊孝経

七月下旬から準備を進めた第五十九回体育祭は予定どおり九月九日に実施することができました。これも班長・リーダーをはじめ三年生が短期間の中でリーダーとして役割をしっかりと果たし、結団式・応援練習など各班一致団結して準備を進めてきた結果であり、感謝するところです。

体育祭当日は、絶好の天候の中でひとりひとりが島高生としての誇りを持ち、躍動感に溢れた全校生徒による「入場行進」が始まりました。

体力やスピードの限界に挑戦した「1500m」「800m」「100m」「200m」の個人種目、そして集団種目、二年生男子の「騎馬戦」、三年男子の「棒倒し」、二・三年女子の「女の意地」。なかでも「女の意地」は決着がつかず再試合を



サークル活動



島高だより
H19第3号
通巻第21号
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

しなければならぬほどでした。そして体育の授業の発表としての「一・二年生女子」「まつりののこ」「一・二年男子」「組体操」、三年生男子「集団行動」を見事に披露し、見学に来られた方々に島原高校の体育祭の魅力を十分に伝えることができました。

また、班活動の集大成としての「応援合戦」はどの班も工夫を凝らしたものであり、ほとんど差がつかないほど優れたものであった。体育祭の最終種目は本校伝統の「サークル」です。班別で競った生徒・職員が島原高校の仲間として二者に肩を組みかけ声をかけ、自分、仲間、そして学校にエネルギーを贈り、今年も高らかに応援歌を合唱し友情を誓い合いました。閉会式では大野PTA会長の音頭で万歳三唱を行い、島原高校の更なる飛躍を祈念し、体育祭のすべてを終了しました。



女の意地 (タイヤの奪い合い)

体育祭にかける生徒の情熱と爽やかな姿は今後の島原高校の未来を更に明るくするものであり、この体育祭での取り組みがそれぞれにとってプラスになることを期待します。保護者の皆様、本校近隣の皆様、ご支援、協力ありがとうございました。

総口優勝

VICTORY

五班 班長 森本 開

夏の灼熱の暑さも和らぎ、ひっそりと秋の到来を感じさせる中の体育祭。みんな口を揃えて「楽しもつ」と言いながら目をランランさせ、優勝を狙っていました。競技が始まると、激しいエー



応援優勝

七班 班長 池田修平

この体育祭は一生忘れられることのないものとなりました。閉会式で七班優勝という言葉が聞かれたとき、これまで味わったことのない感動に一つまれました。これも七班が二学年一致団結し、心が一つになった結果だと思います。練習の時は、不安なこともたくさんありましたが、縦のつながりの強い七班ならやれると信じていたので、その不安も解消されました。来年こそは、応援・競技のダブルタイトルを手にしてほしいです。保護者はじめ応援してくださった多くの方々や先生、本日にありがとうございました。



文化祭

島高文化 花開く

生徒会常任委員長 山下 翔



今年も体育祭のあとすぐに文化祭があった。短い準備期間の中で、どの部もこの一年の成果を十分に発表できたと思う。さて、生徒会執行部では、夏休みの間に看板作り、舞台発表・展示の計画・準備をす



管弦学部の世界旅行へ招待

めてきたが、昨年行った執行部企画イベントはしないことに決めた。昨年の反省から、多くの人に展示の部を鑑賞してもらうためである。今年も全校生徒から意見をいただき、来年の「青楓祭」へ向けて始動したい。お疲れ様でした。

一步前進

生徒会担当 森 幸弘

島原文化会館で開催する文化祭も、二十五年以上続いてきた。当時は生徒数も多く大ホールは生徒だけで満席になり、職員席、保護者席の確保が大変であった。三百七十五人生徒数が減っている。この間、雨の日の対応は大変であった。ホール内の飲食ができないためである。今回も前日のリハーサルから心配していたが、当日は雨もなく文化祭日和であった。今年も文化祭中心の発表で、各部ともに昨年から一步前進したものとなったようだ。昨年度は文化祭終了後に全校生徒によるアンケートを実施した。その結果を各部が示し、今年度に生かしてもらったようである。しかし、まだまだ見直しができるところもあるようだ。



茶道部のお点前



文芸部の演劇

一人に見てもらおう、聴いてもらう」という点も意識しての各部の年間活動であったほしい。来年度は青楓祭(大文化祭)である。島高生の心意気を見せたいものだ。

校長室から

柳川 伸一

例年になく暑い日々が続いていますが、それでも朝夕は涼しい季節となり、庭の彼岸花は今年も時期を忘れずに咲きました。

学校も第二学期を迎え、九日(日)には体育祭、十四日(金)には文化祭が行われました。体育祭では七班に分かれて覇を競いましたが、三年生がよくリーダーシップを発揮して下級生をまとめ、演技に応援にと例年にもまして観る者に感動を与えてくれました。七色の旗が見事に一体となって島高生のこれからのパラ色の夢を示しているかのようでした。一方、「極く新たな感動の地へ」のテーマの下、行われた文化祭はプレゼンテーションの仕方に工夫の余地があったとはいえず、演じる側と観客が一体となった素晴らしいものでした。

二期早々のこの大きな学校行事は島高生の健康的な逞しさとしなやかな感性を示してくれました。これからの時期、三年生は進路決定に向け、二年生は学校活動の中心として、一年生は将来の方向性の決定に向けて自律的な姿勢で臨まねばなりません。私どもも「念ずれば花開く」の精神でお子様方の成長に向け粘り強く尽力いたします。島高生の今後の飛躍を期待します。

保護者の皆様におかれても励ましてくださいますようお願いいたします。



部活動の主な成績 (七、九月)

陸上男子

中地区高等学校陸上競技新人大会
 3000SC 一位 佐藤謙介
 円盤投げ 一位 山田久遠
 ハンマー投げ 一位 山田久遠
 4×400mR 一位 徳永将勝
 110mH 一位 徳永将勝
 400m 一位 尾藤 優
 走高跳び 三位 高原 賢

陸上女子

長崎県高等学校陸上競技選手権大会
 女子七種競技 三位 井村美香
 中地区高等学校陸上競技新人大会
 やり投げ 一位 井村美香
 三位 内島涼子
 三位 井村美香

レスリング

全九州高等学校体育大会
 66kg級 一位 岩永義成
 84kg級 一位 岩永義成
 全国高校生グレコローマンスタイル選手権大会
 66kg級 五位 岩永義成
 84kg級 五位 岩永義成

弓道男子

平成19年度第一回中地区高等学校弓道大会
 男子一年生個人の部 優勝 金本祥那

ソフトテニス男子

長崎県高等学校ソフトテニス選手権島原大会
 個人戦 三位 松本崇裕・佐藤 豪組
 中地区高等学校新人体育大会ソフトテニス競技
 個人戦 準優勝 乗松康平・上田悟司 組

剣道男子

全九州高等学校体育大会 団体 三位
 玉竜旗高校剣道大会 団体 優秀校
 優秀選手賞 甲斐勇太

大旗争奪高校剣道大会

敢闘賞 大坪学嗣
 敢闘賞 大坪学嗣

全国高校招待剣道大会武蔵旗

団体 優勝

合唱部

九州合唱コンクール長崎県予選
 女声合唱 金賞
 混声合唱 銀賞
 声楽部門 金賞
 本多志織 城田紗希
 濱崎 藍

長崎県高等学校音楽コンクール

管弦楽部 銀賞 松本尚之 本多千秋
 吉田結依 松尾 菜
 草野直人
 ピアノ部門 銅賞 松尾洋平
 草野直人
 草野直人

長崎県吹奏楽コンクール

管弦楽部 銅賞
 放送部 全国高校放送コンテスト長崎県予選
 テレビドキュメント部門 優良賞

美術部

高校生国際美術展
 奨励賞 草野弘子

弁論部

中学校高校選抜弁論大会
 島原市教育員賞 荒木華蓮

その他

長崎県高等学校総合文化祭囲碁選手権大会
 男子 団体 優勝
 (福田拓真 宮崎裕樹 山崎和貴)
 長崎県高等学校新人体育大会 水泳競技
 男子 200m背泳ぎ 二位 梅田裕太

実りの秋に

第三学年から

第二学年主任 釘島正智
 「休業」とは名ばかりの夏休業も一気に過ぎ去り早くも秋に突入しましたが、その間には、保護者面談、夏季補習、模擬試験、学習合宿、体育祭、文化祭、と数々の行事が実施され、生徒は忙しい中にも「熱く充実した夏」を駆け抜けました。

雲仙合宿では、「集中力が高まった」、「時間がながいことがよく分かった」、「普段いかに時間を無駄にしているか分かった」、「友達との姿に励まされた」、「学校でも質問しようと思った」、「この経験をムダにしない」などの感想が多く、得たものは大きかったようです。また、体育祭では三年生が素晴らしいリリダシップを發揮して、創意工夫に富んだ応援活動や若さあふれる競技・演技を披露してくれました。

島高生としての主な行事も終え、いよいよラストスパートをかける時期です。ここが正念場、一心不乱に努力する六十回生へのご支援、ご指導をよろしくお願いたします。

第二学年から

第二学年主任 酒井俊治
 体育祭がとて普通の秋のように感じます。九月もあつという間に過ぎ、秋も深くなりつつあります。九月中旬の進路講演会では貴重な講話を聞くことが出来ましたが、日々の生活で活かしていくことの難しさを感じます。



雲仙合宿の様子

「ビックリ! 長崎県に降る雨の何と9割が酸性雨!」

理科科主任 片山泰成

理科科二年生の第二回目のSPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)の活動は、大村市にある長崎県環境保健研究センター訪問でした。

今回の研修の目的は、「火山」に関係する「火山性ガス」について学習すること、今年になって三回発表されている「光化学スモッグ注意報」の原因物質である、光化学オキシダントや、酸性雨、黄砂に



重要な時期です。六十一回生の状況分析では、「学習量の絶対的不足」、「現状に不安を覚えている」ことがあげられます。このままの状態が続くと、「どうにかなるさあ」との意識があらゆる所に蔓延しそうです。「どうにかしなければならぬ」という問題意識が、この後の生活で大切であることを認識させたいものです。

初めての「五教科」進路記述が十月末に行われます。並行して地区新人戦、県新人戦など大きな大会も行われます。今、まさに「文武両道」です。

初めの「五教科」進路記述が十月末に行われます。並行して地区新人戦、県新人戦など大きな大会も行われます。今、まさに「文武両道」です。

第一学年から

第一学年主任 吉田英雄
 「あつ」という間の六ヶ月、高校生活も六分の一が終了しました。この期間、一通りの校内行事を体験し、やっとこれからが本当の高校生活の始まりです。

季節は秋、スポーツの秋・芸術の秋・読書の秋、でもなんと今も「夏の間」です。酷暑の夏に築き上げた成果を出す実りの秋でもあります。この時期に身につけた学力が高校三年間を占うと言っても過言ではありません。運動部の生徒諸君にとっては、新人戦等、本格的な活動の時期でもあります。けじめをつけて、学習に専念して欲しいものです。

一日一日を着実に過ごすごとでも大切ですが、将来を見据えることも重要です。あわてる必要はありませんが、視野を広げるための進路研究も怠ることのないようにお願いします。

新任教員



こんにちは
 は、キティ・マック(Kitty Mack)です。
 私は香港に生まれ、十歳の時にカナダのトロントへ移住しました。日本に来るまでカナダでは、小学校や中学校で教えていました。子どもの頃から日本の文化に興味があり、日本の教育を学んでみたいと思って日本に来ました。二年前五島高校で勤務していましたが、この度の異動で、新しい経験をしようと思つて転勤してきました。島原高校の生徒さんは、学習や部活動を一生懸命頑張っていますね。島原の暮らしに早く慣れ、英語や異文化の指導を頑張っていきたいです。

携帯サイトも開設しました。
<http://www.shimabara-h.ed.jp/k/>